

オリンピックと早稲田にまつわる3つのエピソード

これまでオリンピック・パラリンピックには多くの早大生・校友が出場し、さまざまなドラマが繰り広げられました。その中から学生の皆さんに知っておいてほしいエピソードを紹介します。

1 “友情のメダル” 現代へ続くメッセージ

“友情のメダル”とは1936年のベルリンオリンピックにおいて、棒高跳で銀メダルとなった西田修平（1935年理工卒）と、銅メダルの大江季雄（当時慶應義塾大学学生）の2人が健闘をたたえあい、お互いのメダルを半分に切断してつなぎ合わせ、記念のメダルとしたものです。これは、2人の、さらに早稲田大学と慶應義塾大学の友情、スポーツの素晴らしさを現代に伝えるメダルです。
(文・大学史資料センター助手 高橋 央)



▲友情のメダル（早稲田大学大学史資料センター所蔵）

2 三浦弥平 “早大初のオリンピック選手”

オリンピックで活躍する早大出身者は数多くいますが、記念すべき初出場の栄誉を担ったのはマラソンの三浦弥平（1920年政経卒）です。1920年の第7回アントワープ大会に出場した三浦は、大会後もドイツに残り経済学やスポーツ科学の研究に専念します。帰国後、故郷の福島県へ戻った三浦は、青年の精神養成を期してマラソン大会を提案し、現在でも「三浦弥平杯伊達市梁川ロードレース大会」として毎年多くの参加者を集めています。
(文・大学史資料センター嘱託 関口 直佑)



▲ドイツ留学時代の三浦弥平氏（写真右）伊達市教育委員会蔵

夏季オリンピック出場者数は291名

夏季オリンピックに出場した早大生・校友は、2008年に開催された北京オリンピックの時点で、延べ282名（早大生167名、校友115名）。今回のロンドンオリンピックに出場する9名（早大生5名、校友4名）を加えると、夏季オリンピックに出場した早大生・校友はなんと291名にもなるのです。
※人数は7月1日（日）現在

夏季オリンピック獲得メダル数 (2008年現在)

	金	銀	銅
早大生	4	13	4
校友	4	5	14

【出所】競技スポーツセンター Webサイト「オリンピック・パラリンピックと早稲田」
<http://waseda-sports.jp/center/olympic/>

早稲田 偉人列伝

～光り輝く偉業を残した先輩たち～

おだ みきお
織田 幹雄
(1905年～1998年)

日本人初オリンピック金メダリスト

7月27日（金）、いよいよロンドンオリンピックが開幕します。1人でも多くの日本人選手にメダル獲得が期待されますが、日本人初のオリンピック金メダリストが早稲田大学OBの織田幹雄であることは皆さんご存じでしょうか。

織田は1925年商学部に入學し、競走部で活躍。1928年のアムステルダムオリンピックでは、三段跳決勝の2回目に15m21cmを記録し日本人初の金メダルを獲得しました。この金メダルは、個人としてはアジア人初の金メダルでもありました。オリンピック後には当時の三段跳の世界記録を樹立。早稲田大学では2005年から織田の生誕100年を記念して、所沢キャンパス内にあるグラウンドを「織田幹雄記念陸上競技場」と命名しています。

